

町内の交通体系について

門原 武志 議員



名古屋市バス（緑区の「白土」バス停）

【問】名鉄バス押草団地線廃止後の巡回バスの乗車状況は。

【生活部長】乗車人数は増えたが定員オーバーする程ではない。押草団地線利用者の一部が利用していると思われる。

【問】混雑を嫌って利用しないとか、押草団地線と時刻が異なり利用できないなどないか調査を。

【生活部長】地域公共交通総合連携計画の調査で状況把握したい。懇談会も開催するので意見を。

【問】住民が自主的に交通事業を起こす場合の町の援助は。

【生活部長】ノウハウを提供したい。運行され

ばすぐに補助するわけではないが、公共性をもとに判断したい。

【問】名古屋市内の町内への誘致を。

【企画部長】名古屋市側のメリット等を考慮すると困難であると考える。

国民健康保険について

【問】国保税は所得に占める割合が高い。減税を。

【健康部長】低所得者の負担を考慮し6割・4割の軽減措置がある。

【問】傷病手当の実施を。

【健康部長】全国に一例もなく、考えていない。

町をあげて貧困対策を

【問】税や給食費等の滞納と貧困との関連、生活再建についての認識は。

【町長】やむを得ない滞納は貧困から抜け出したいというシグナルと思う。多重債務など貧困の原因を発見したら役場の部署間で連携するといった横断的な対処をしたい。

問診票の質問内容で健（検）診の充実を

若園 ひでこ 議員

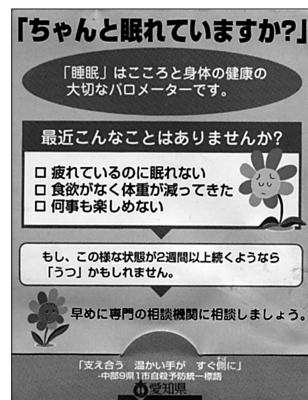


【問】昨今のうつ病や自殺者の増加をどのように思い、この増加対策をどのように考えるか。

【福祉部長】本町では、平成10年～19年で、78人が自ら命を絶っている。自殺者の増加は、深刻な問題であり、自殺予防対策は重要な課題の一つ。原因の一つであるうつ病は、日常生活に支障をきたす病気。早期の発見や治療が回復への早道と考える。

【問】うつ病への早期発見対応が、自殺防止の効果を上げることがわかった。社会問題となっていく自殺の原因だけでなく、身体的な病気の原因となるうつ病の早期発見について、どのように考えるか。

【福祉部長】ストレスに気づいたら、町や瀬戸保健所や医療機関に相談する。また、周囲の人のうつ病のサインに気づいたら、



愛知県のチラシ

受診をすすめるなどの対応が重要と考える。

【問】自治体や企業では、健診時の問診票に、●不眠が2週間以上続く●食欲がなく体重が減った●この一ヶ月気分が沈んだり憂鬱な気分になったりしたことがよくあった●何事にも興味が湧かない心から楽しい感じがなくなったなどのうつ病発症のサインとわかる質問を加え、うつ病の早期発見を図ろうとする動きが出て来た。当町でも、このようにして、健診の充実を図ってみたいかが。

【健康部長】厚労省も、メンタルチェックを充実していく方針となっている。これを踏まえながら、検討していく考えである。